



SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

Newsletter

発行元 : SID日本支部
 発行責任者 : 中村 卓
 発行日 : 2026年2月28日

日本支部

第91号

支部 HP URL : <http://www.sid-japan.org/>

巻頭記事では、北海道大学電子科学研究所の中野谷一教授にご寄稿いただきました。

センシング応用に向けた近赤外有機 EL 素子の開発 中野谷 一 (北海道大学電子科学研究所)



有機 EL 素子 (OLED) に関する基礎から応用にわたる精力的な研究開発が広範囲になされ、約 40 年間の研究開発を経て、OLED は各種ディスプレイとして実用化に至った。一方で、EL スペクトルの色純度向上に適した狭線発光を示すペロブスカイト LED や、OLED の苦手とする超高輝度域で発光が可能なマイクロ LED など、OLED の競合となるディスプレイ技術の進展も著しい。このような状況において、OLED の特徴を最大限に活かした新たなアプリケーションを開拓することは重要な課題である。我々は、OLED 技術の新たな可能性のひとつとして、近赤外 (near-Infrared: NIR) 光を発する OLED に着目している。NIR 光は、人間の眼で認識できない不可視光であり、センシング用光源、通信用光源、さらには医療応用の観点からも産業的価値が高い。例えば、NIR 波長領域にはヘモグロビンや水による吸収損失がほぼ見られない波長領域 (生体の窓) が存在し、可視光と比較して光エネルギーも低いため、非侵襲性光源として有用である。またさらに、太陽光の一部 (例えば波長 940nm 程度の光) は、大気中に存在する水分子に

より吸収されるため、地表面に到達するまでに著しく減衰する。そのため、これらの波長帯における NIR 光は、赤外線リモコンなどの通信およびセンシング光として多用されている。近年、NIR-OLED に関する研究例が急激に増加しており、その関心の大きさが窺える^[1,2]。しかし現状の NIR 発光分子 (ピーク波長 900nm 以上) の発光量子収率 (PLQY) は 1% 以下と極めて低く、NIR-OLED における外部 EL 量子効率などの諸特性も実用的なレベルには到達しておらず、その社会実装に向けた現実的な取り組みには至っていない。現在 NIR 光源として無機 LED が利用されているが、無機 LED は画素の微細化により EL 効率が著しく低下するという技術課題がある。これに対して OLED は優位性がある。例えば OLED は、画素のサイズが小さくても性能が大きく低下しない。この特性を利用すれば、これまでに培われてきたディスプレイ駆動用アクティブマトリクス回路と NIR-OLED を融合することで、任意パターンおよび階調で NIR-EL の能動的投射が可能な、これまでにないセンシング光源 (NIR-OLED プロジェクター) などの実現が期待できる。これまでに我々は、NIR 熱活性化遅延蛍光 (TADF) 分子の開発や NIR 蛍光色素の開発を通じ、高性能 NIR-OLED の開発を進めてきた^[3,4]。近年では、NIR-TADF 分子をエネルギーアシストドーパント、NIR 蛍光色素を発光分子とすることで、EL ピーク波長 930 nm、外部 EL 量子効率 1% (@100 mAc^{m-2}) を示す NIR-OLED を開発した^[3]。また、マイクロ OLED 用駆動回路と組み合わせ、

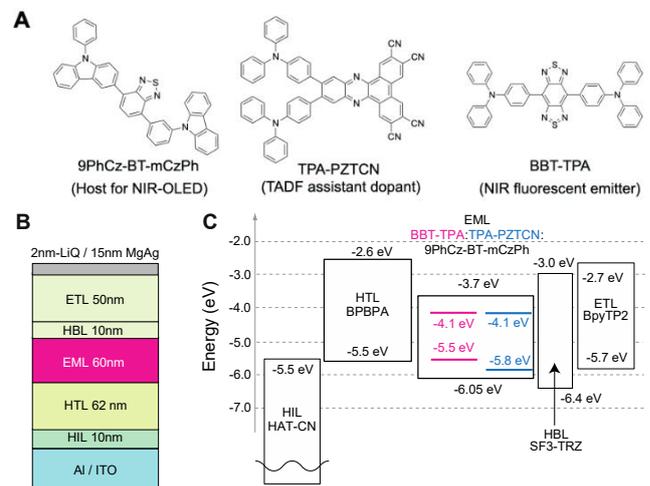


図 1 : (A) NIR-OLED 用分子の構造 (B) 試作した OLED 構造とエネルギー準位図

ピクセル単位で NIR-OLED 画素をアクティブ駆動し、OLED からの NIR-EL を物体表面に投射することで、物体表面を三次元モデリングすることにも成功している^[4]。試作した NIR-OLED プロジェクターは、小型かつ軽量といった特徴を有していることから、新たな NIR センシング光源としての応用が期待される。

一例として、図 1 に試作した NIR-OLED に用いた TADF アシストドーパント (TPA-PZTCN)、NIR 蛍光色素 (BBT-TPA) の分子構造と、その OLED 構造を示し、図 2 にボトムエミッション (BE) 型と TE 型 NIR-OLED の OLED 特性を示す。BE 型 OLED からの EL スペクトルは、EL 半値幅 190 nm 程度であったが、TE 型 OLED からの EL スペクトルは、光学干渉効果により設計された光学波長に対応するピークへの長波長シフト (ピーク波長: 930 nm) とスペクトルの狭線化が観測され、その発光を肉眼にて観測することはできなかった (図 2A, C)。また最大 EL 外部量子効率、BE 型および TE 型 OLED でそれぞれ 2.1%、1.8% であり、駆動電圧も同程度であった (10 V@100 mA cm⁻²)。また NIR-EL の出力は、100 mA cm⁻² で 3.8 W Sr⁻¹ m⁻² であった (図 2B)。OLED 耐久性に関しては、100 mA cm⁻² の定電流駆動条件において、300 時間を超えても EL 強度の劣化は観測されなかった^[4]。この高い駆動耐久性は、NIR-OLED 用として開発したホスト材料 (PCz-BT-mCzPh) が化学的に高い安定性を有することに加え、TPA-PZTCN から BBT-TPA への逆項間交差を經由したエネルギー移動により三重項励起子密度が低減しているためと考察している。

試作した OLED は、周辺材料の最適化により比較的高い耐熱性を有しており、加熱試験 (加熱温度 120°C) 後も EL スペクトル強度および駆動電圧に明確な変化は観測されなかった。これにより OLED 性能を低下させることなく、NIR-OLED を OLED 駆動回路基板上に実装することが可能となる。実際に NIR-OLED をマイクロ OLED ディスプレイ用の駆動回路に集積化し、NIR-OLED プロジェクターを開発した例を図 3 に示す。画素サイズはおよそ 6.6 μm、画素数は 230,400 ピクセルである。このプロジェクタに搭載された NIR-OLED 画素をピクセル単位で駆動 (駆動電流密度: 100 mA cm⁻²) し、NIR-EL を物体に投影、反射光を CMOS カメラで撮影することにより、物体表面を三次元モデリングすることを実証している (図 3)。本研究で開発した NIR-OLED プロジェクターは、現在、実用化されている OLED ディスプレイ技術と高い互換性があるため、個人認証を含むセキュリティ用途や各種センシングアプリケーションなど、有機 EL 素子のディスプレイ応用を超えた新たなアプリケーションが創出できると期待している。

試作した OLED は、外部 EL 量子効率 1% 程度と比較的高い効率を示すが、実用的応用に向けては、さらなる EL 効率の向上が必要不可欠である。NIR 蛍光色素の PLQY が低い要因としては、エネルギーギャップ則に従う無輻射失活速度定数増大のためと考えられ、NIR-OLED の実用化に向けては、NIR 発光色素の PLQY を改善することが急務である。近年、発光色素の水素原子を重水素置換することで無輻射失活の抑制や素子耐久性の改善が可能であると報告され注目を集めている。実際に NIR 光を発する白金錯体において重水素化による PLQY の向上が観測されており^[5]、我々の材料系においても、NIR 蛍光色素およびホスト分子を重水素置換することで、共蒸着薄膜の PLQY が軽水素体と比較しておよそ 3 倍向上することを見出している^[6]。今後、新たな NIR 発光分子の開発などを通し、NIR-OLED の社会実装に向けた研究開発を進めていきたい。

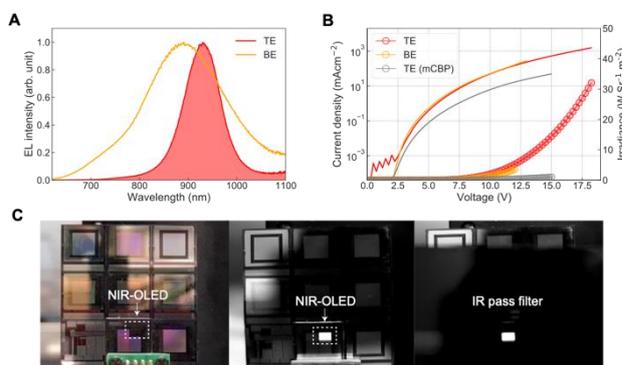


図 2: TE 型および BE 型 OLED の (A) EL スペクトル、(B) 電流電圧特性、(C) TE 型 OLED の駆動中の写真 (左: 可視光カメラ、中央: NIR カメラ、右: NIR カメラ + IR パスフィルターで撮影)

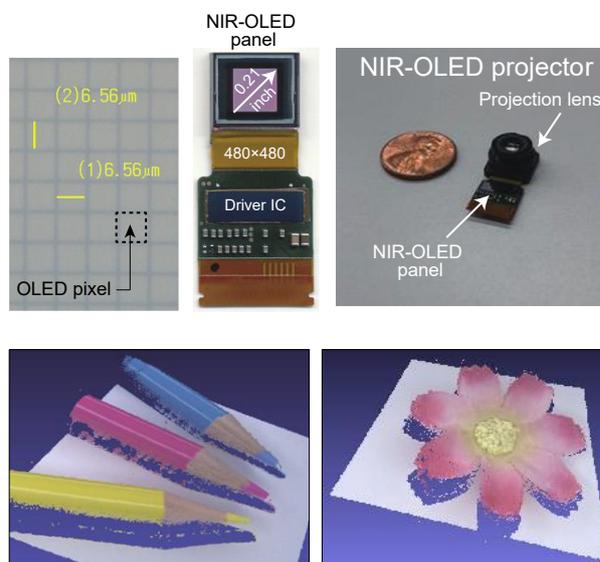


図 3: 試作した NIR-OLED プロジェクターの外観図と得られた三次元形状像

1. “Recent advances in highly-efficient near infrared OLED emitters” P. L. dos Santos, P. Stachelek, Y. Takeda and P. Pander, Mater. Chem. Front., 8, 1731-1766 (2024).
2. “Strategies for Advancing Near-Infrared Organic Light-Emitting Diodes: Innovations in Luminescent Materials, Device Architectures, Fabrication Methods, and Applications” S. Ahadzadeh, S. Brebels, W. Maes, W. Deferme, Adv. Funct. Mater. (2025), Article 2419599, 10.1002/adfm.202419599.
3. “Highly efficient near-- infrared electrofluorescence from a thermally activated delayed fluorescence molecule” U. Balijapalli, R. Nagata, N. Yamada, H. Nakanotani, M. Tanaka, A. D'Aléo, V. Placide, M. Mamada, Y. Tsuchiya, C. Adachi, Angewandte Chemie Int Ed. 60, 8477–8482 (2021).
4. “Three-dimensional sensing of surfaces by projection of invisible electroluminescence from organic light-emitting diodes” N. Yamada, H. Nakanotani, A. Takagi, M. Mamada, U. Balijapalli, T. Ichikawa, E. Hirata, S. Kaizu, A. Tanaka, K. Itonaga, C. Adachi, Sci. Adv. 10, eadj6583 (2024)
5. “Polyatomic molecules with emission quantum yields >20% enable efficient organic light-emitting diodes in the NIR(II) window” S.-F. Wang et al., Nat. Photonics, 16, 843–850 (2022).
6. “Efficient Near-Infrared Fluorescence in Deuterated Host–Guest System for Near-Infrared Organic Light-Emitting Diodes” Q. Yu, Y. Tamura, H. Nakanotani, M. Mamada, C. Adachi, Sdv. Opt. Mater., 12, 2400932 (2024).

謝辞

本稿で紹介した NIR-OLED に関する大部は、九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センター（センター長 安達千波矢 主幹教授）で実施したものである。TPA-PZTCN 分子を用いた NIR-OLED に関する研究は、永田亮博士（当時 九州大学）、Umamahesh Balijapalli 博士（当時 九州大学）が中心となり実施したものである。また特に、NIR-OLED プロジェクターに関する研究では、ソニーグループ株式会社に数多くのサポートを頂いた。紙面をお借りして深く感謝申し上げたい。

【SID 日本支部主催】

2025 年 日本発・注目ディスプレイ科学技術講演会 山本 裕紹 SID 日本支部副支部長（宇都宮大学）

開催
案内



SID 日本支部では、新たな取り組みとして「2025 年 日本発・注目ディスプレイ科学技術講演会」を開催いたします。本講演会は、2025 年 2 月～2026 年 1 月に発表され、特に注目を集めた技術・研究を選定し、SID 日本支部として紹介する年次イベントです。技術的価値のみならず、学術的・産業的インパクトが大きく、SID 日本支部として今後も注目するテーマを取り上げ、分野横断で最新動向を俯瞰できるプログラムとして企画しました。

本年は、IDW'25 Best Paper Award 受賞講演、SID Display Week 2025 Distinguished Paper Award 受賞講演に加え、SIDJC 注目講演（Featured Talk）として CES 2026 注目ディスプレイ技術のセッションを設け、研究・開発の最前線を日本語で分かりやすく共有します。加えて、会場ではデモ・交流の時間（Interactive Session）を 2 回設け、講師・参加者間の意見交換を促進します。

【開催概要】

開催日時： 2026 年 3 月 6 日（金）13:00 ～ 17:30

開催形式： 対面開催＋見逃し配信（オプション）のハイブリッド形式

※当日のライブ配信は行いません。後日アーカイブ配信のみです。

会場： 株式会社東陽テクニカ 本社 7 階 セミナー室
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1 丁目 1 - 6

講演資料： 聴講後のアンケート回答者にプレゼンテーション資料（抜粋）を配布。

参加特典： 参加登録のうえ対面参加された方に、SID 日本支部の創立 50 周年記念ノベルティグッズ（空中クロック他）を進呈いたします。

【プログラム (予定)】 ※講演タイトルは一部仮題を含みます。

■開会挨拶	中村 卓	SID 日本支部 支部長
■Session1: IDW'25 Best Paper Award 受賞講演		
・光データ中継衛星 (LUCAS) の概要と軌道上運用結果	佐藤 洋平	JAXA
・CMOS イメージセンサの High Dynamic Range 技術の研究開発	宮内 健	ブリルニクスジャパン/ 東北大学/立命館大学
・視力矯正レンズに対応した高透過率樹脂エレクトロクロミック (EC) シートの開発	藤原 誠	住友ベークライト
■ Interactive Session (デモ・交流タイム)		
■ Session 2 : SID Display Week 2025 Distinguished Paper Award 受賞講演		
・5009-ppi, 10000-cd/m ² , OLED/OS/Si Structure Display with Built-in CPU and Display Driver	伊藤 港	半導体エネルギー研究所
・水素フリー絶縁膜による酸化物薄膜トランジスタの高移動度・高信頼性技術	古田 守	高知工科大学
■ Interactive Session (デモ・交流タイム)		
■ Session 3 : CES 2026 注目ディスプレイ技術		
・メタレンズを用いたウェアラブル空中ディスプレイの開発	竹内 太郎	京セラ
・技術動向解説: CES 2026 に見るディスプレイ技術の新潮流と産業としての将来性	松枝 洋二郎	松枝コンサルタント
■ 閉会挨拶	山本 裕紹	SID 日本支部 副支部長

【参加費】

- ・SID 会員 4,000 円 (★)
- ・SID 非会員 (SID 一年間会員資格付き) 23,000 円 (★)
- ★見逃し配信オプション (SID 会員限定/SID 一年間会員資格付きの方限定) +2,000 円
- ・SID 非会員 (聴講のみ / 会員資格なし) 15,000 円
- ・学生 無料 (聴講のみ)

【見逃し配信オプションについて】

- ・「SID 会員」「SID 非会員 (SID 一年間会員資格付き)」のみお申込み可能なオプションです。
- ・3月20日 (金・祝) 23:59 まで視聴可能なオンデマンド配信を希望される方に対して、以下の条件でオプションを提供いたします。
 - Zoom のクラウド録画機能によるストリーミング配信 (ダウンロード不可)
 - 参加者登録必須 (氏名・メールアドレス・受付番号などを取得)
 - 視聴にはパスコードと登録承認が必要
- ・見逃し配信は Zoom 登録アカウントによるアクセス制御を行い、申込者本人のみが視聴できます。
- ・見逃し配信はオンデマンドサービスではなく、期間限定での特別提供となります。

【申し込み方法】

以下のリンクよりお申し込みください (Payvent)

https://app.payvent.net/embedded_forms/show/699423017b74f5f9d9811fa9

学生の場合には、学生証のコピーを E-mail 添付にて
セミナー事務局< info@sid-seminar.org>までお送りください。

【お問い合わせ】

SID 日本支部 セミナー事務局 (日和サービス(株)内) 担当: 麻生
E-mail: info@sid-seminar.org 〒297-0035 千葉県茂原市下永吉 170



注目ディスプレイ
申し込みサイト

開催報告

第8回ディスプレイトレーニングスクール

檜山 邦雅 トレーニングスクール校長 (コニカミノルタ)



SID 日本支部主催「第8回ディスプレイトレーニングスクール」を、2025年10月20日(月)にオンライン(Zoom Webinar)にて開催しました。本スクールでは、学生や若手研究者、そして新たに分野に携わることになった研究者の方々や、もう一度、基礎を学びたい研究者の方々を対象に、ディスプレイの技術動向や、ディスプレイ材料、製造技術等の基礎知識を“一日”で習得できるよう第一線で活躍中の先生方を講師としてお招きしています。

今年のテーマは「AR/VRを支えるディスプレイ材料および光学の最前線」とし、大学および企業から6名の講師を迎え、発光材料、有機ELデバイス、VR/AR光学設計、シースルーディスプレイ、医療用ARグラスなど基礎から応用まで幅広い内容の詳細技術が紹介されました。参加者からはディスプレイに関する材料と光学の基礎からAR/VRの応用まで幅広く学ぶ機会となり理解が深まったとの声が多く寄せられました。

【プログラム】

10:00~10:05	校長挨拶	山本裕紹	トレーニングスクール校長
10:05~10:15	SIDの紹介	中村卓	SID日本支部長
10:15~11:05	ペロブスカイトナノ結晶の先端デバイス応用	千葉貴之	山形大学
11:05~11:10	休憩		
11:10~12:00	青色リン光デバイスの高効率化と長寿命化に向けた独自材料開発	北弘志	コニカミノルタ株式会社
12:00~13:00	昼食		
13:00~13:50	高効率で長寿命な有機ELデバイスの基礎：励起子ダイナミクス解析	村田英幸	北陸先端科学技術大学院大学
13:50~14:40	VRを支えるディスプレイ技術と光学技術	白倉奈留	シャープ株式会社
14:40~15:00	休憩		
15:00~15:50	AR/MRグラス用シースルーディスプレイ技術の最新展開	川原武士	Cellid株式会社
15:50~16:40	メタマテリアル技術を活用した医療用ARグラス	雨宮智宏	東京科学大学
16:40~16:50	クロージングリマーク	檜山邦雅	トレーニングスクール副校長

参加者は44名(学生10名、会員21名、非会員5名、幹事・講師8名)と、昨年の31名より多くの方に参加いただきました。また、今回試行的に取り入れた「見逃し配信」は15名の方に利用いただき、好評でした。参加者のアンケートからは初心者にはやや難しいとの意見もありましたが、講演内容・時間配分共に高評価を頂きました。

また、関心の高い分野としてAR/VR基礎技術、ディスプレイ性能評価技術、Micro LED、ホログラフィック光学素子、AI材料開発、立体映像などを挙げていただいております。次年度もこれらの分野を中心に基礎から応用まで広く学べる構成を検討します。

第8回ディスプレイトレーニングスクールは皆様のご協力により無事好評のうちに終了できました。あらためまして講師の皆様にご礼申し上げます。次年度も引き続き魅力的な学びの場を提供いたしますので、ご期待いただければと思います。

開催報告

SIDJC-SB Connect 2025

高塚 大輝 SID 日本支部学生ブランチ代表 (宇都宮大学)



SID 日本支部学生ブランチの主催イベントとして、「SIDJC-SB Connect 2025」を IDW'25 終了後の 2025 年 12 月 6 日(土)に広島県広島市 RCC 文化センター エールエール A 館で開催しました。

本イベントは、学生、大学、企業、JSID 編集委員、SID 会長といった所属機関や国を超えた交流を目的として、ディスプレイ業界の企業研究者によるキャリア講演、博士後期課程学生による口頭発表、学生によるポスター発表、J. SID の編集委員長による論文投稿の採択率を上げるためのチュートリアル講演、SID 会長の Prof. Ioannis (John) Kymissis、J. SID の編集委員長の Prof. Abhishek Kumar Srivastava とのネットワーキングセッションを行いました。特にネットワーキングセッションは、学生と企業研究者、学生と海外からの招待講演者間での充実した議論やコミュニケーションの場であったとして、

参加者から好評をいただいています。開催日時は、より多くの方がご参加しやすいように IDW 翌日としました。また、参加していただいた方には空中ディスプレイを使った記念品と学生発表をまとめた予稿集が配布されました。

プログラム構成を表 1 に示します。当日講師の交代はなく、予定の方々にご登壇いただけました。本稿では、アンケート結果について報告するとともに、来年度の開催に向けた改善案を記します。

表 1 : Connect 2025 のプログラム構成

時刻	セッション	登壇者 敬称略
09:10-09:15	Opening Remarks	山本 裕紹 (宇都宮大学)
09:15-09:45	Career Talk by a Display Industry Representative	那脇 洋平 (ウシオ電気)
09:45-10:30	Break & Poster Session	学生参加者
10:30-10:50	Student Presentation 1	高塚 大輝 (宇都宮大学)
10:50-11:10	Student Presentation 2	Ma Chuanyu (九州大学)
11:15-12:00	Introduction to the J.SID Review Process	Abhishek Kumar Srivastava (香港科技大学)
12:15-13:00	J.SID Authors-Editors Networking Session	

1 参加者数

参加者数と内訳を表 2 に示します。学生と一般のバランスも良く、48 名の方にご参加いただきました。初開催のため人数が集まるか不安もありましたが、IDW 翌日に開催した点が大きいと考えています。一方でイベント告知時期が遅かったため、日程調整ができなかった方もいらっしゃるかもしれないため、今後はより早い時期に告知をできるようにしたいと考えています。

表 2 : Connect 2025 参加者

学生	25
一般	20
講師	3
合計	48

2 アンケート結果

本イベントの終了後にアンケートを行い、14 名の方々から回答をいただきました。アンケートの回収率は 29%となりました。来年度は回収率向上のため、会議終了後会場での回答などを考えております。

2.1 改善内容について

8件の回答をいただきました。同じような内容を集約すると次の通りです：

- ポスターセッション用の時間とスペースがもう少し欲しかったと思います。
- 口頭発表やポスター発表の数や種類が限られている。
- ランチイベントをより充実させてほしい。
- イベント告知を早めにしてほしい。
- メインの言語が日本語か英語か曖昧だった気がします。どうせなら、日本語をメインにしても良いのではないかと思います。
- 学生参加者の学校の種類を増やした方が良い。

2.2 今後継続していくべき点

9件の回答をいただきました。特に SID 会長と J. SID の編集委員長とのネットワーキングセッションに関する回答が多く、今後も継続していきたいと考えています。同じような内容を集約すると次の通りです：

- Career Talk は多くの学生さんに有用な情報だと思います。
- ネットワーキングセッション。様々な背景を持つ人々と交流できたと思います。
- 学生ポスターセッション
- SID 会長と J. SID の編集委員長とのネットワーキングセッションは続けてほしいです。

2.3 コメント

その他のコメントとして自由記述欄に 14 件の回答をいただきました。同じような内容を集約すると次の通りです：

- ポスターではなく、各自の PC でプレゼンでも良いかと思えます
- 学生向けの講義数を増やすのが良いと思います。例えば、企業代表者による講義の回数を増やすなどです。
- とても良いイベントだった。
- 来年以降も引き続き開催されることを心から願っています。
- 素敵な新しいイベントを企画してくださり、ありがとうございます。
- 他大学の研究者や企業の方々と研究やその他の話題について話し合う良い機会でした。
- 企業と学生が交流できる貴重な機会をご提供いただき、誠にありがとうございました。
- ぜひ今後も多くの方をお招きいただき、この取り組みが継続していくことを願っています。

3 担当委員の振り返りと来年度に向けた検討

Connect2025 の開催告知について検討いたします。今回の告知は 10 月末であり、開催の 1 ヶ月前となっていました。IDW 翌日にはありますが、すでに出張日程を確定していたためご参加できない方がいらっしまったと考えております。次回の開催時には 2~3 ヶ月前に告知しようと検討しております。

次に、参加学生の所属大学が今回は 3 大学に限られていたため、次回はより多様な大学から参加を募れるよう、積極的な告知や勧誘の拡大を検討します。企業参加者にとっても、複数大学の学生と直接対話できることは大きなメリットであり、イベント価値の向上につながるためと考えているからです。

最後に、ポスターセッションの形態や時間を見直そうと考えています。今回はスペースの制約から、手持ちサイズのポスターとしたため、載せられる情報に限りが生じてしまいました。A0 サイズのポスターが掲示できる会場の確保やご回答いただいた自身の PC での発表等検討しております。この他にも時間調整や運営体制など本イベントがより充実するよう改善していきたいと考えております。

4 むすび

Connect 2025 を IDW 翌日に開催し、48 名の方にご参加していただき、14 名の方々からアンケート回答をいただきました。本イベントは学生、大学、企業、JSID 編集委員、SID 会長といった所属機関や国を超えた交流の機会として順調なスタートをきることができたと実感しております。改めまして、講演者・参加者の皆様に感謝申し上げます。

SIDJC-SB 主催イベントの「Connect」をこれからも IDW 翌日イベントとして定着させていけるよう担当委員共々尽力していく所存です。今回の改善点を反映させ、より価値の高いイベントとなるように企画いたしますので、多数のご参加をお待ちしております。

開催報告

IDW '25

森 裕行 IDW '25 実行委員長 (AGC 株式会社)



第 32 回ディスプレイ国際ワークショップ (IDW '25) は、2025 年 12 月 3 日 (水) から 5 日 (金) まで、広島国際会議場にて開催されました。論文発表件数は 4 件の Keynote Address を含め計 446 件 (昨年比 58 件減)、参加者数は国内 670 名、海外 406 名の計 1,076 名 (昨年比 77 名減) となり、新型コロナウイルス感染症拡大以前に近い水準を維持して、安定した規模での開催となりました。

【会議冒頭～基調講演】

開会にあたり、私から開会宣言を行った後、石井啓二組織委員長が IDW '25 の全体概要を紹介しました。続いて Ioannis Kymissis SID 会長、齋藤英雄 ITE 会長が開催の挨拶を行い、藤原康文プログラム委員長がプログラム概要を説明しました。その後、Kobayashi-Uchiike-Mikoshiba Prize 授与式では、安達千波矢氏、藤掛英夫氏がディスプレイ分野の業績と IDW への貢献を称えられました。

基調講演では、以下の 4 名より先進的なご講演をいただきました。

- ・ 神田 菊文博士 (NHK 放送技術研究所所長) 「R&D for Future Media and the Role of Displays」
- ・ Ioannis Kymissis 博士 (Columbia University 教授) 「MicroLEDs: Where are the Successes and What are the Challenges?」
- ・ Ghislaine Boddington 博士 (University of Greenwich, Creative Director) 「Digital Human Twins – Our Future Data Selves」
- ・ WeiLung Liao 博士 (AUO CTO) 「Beyond Vision, Unleash the Possibilities」

いずれも、全体テーマである「Beyond Displays: Designing Human-Centered Futures through Emerging Media」に沿った内容で、ディスプレイ技術の将来像を示唆するセッションとなりました。

【プログラム・構成】

IDW はディスプレイ技術ごとの常設 Workshop (WS) と、新たな注目分野を扱う Topical Session (TS) で構成されます。さらに、WS・TS を横断するテーマは Special Topics of Interest (STI) として共同でプログラム編成・実施が行われています。IDW '25 では、以下の 5 分野が STI に設定され、研究・開発からビジネスまで幅広い分野を網羅しました。

- (1) Artificial Intelligence and Smart Society
- (2) AR/VR and Hyper Reality
- (3) Automotive Displays
- (4) Micro/Mini LEDs
- (5) Quantum Dot Technologies

【論文発表】

論文発表 (計 446 件) の国・地域別構成は、日本が 50% で最多、韓国が 23%、台湾が 11%、中国が 8% とアジア圏が多く、欧米では米国が 2% でした。Oral Session は 8 セッションが並行して行われ、200 名を超える聴衆を集めたセッションもありました。セッション終了直後に行う Extended Q&A や、プロトタイプ等の

デモ展示による活発な議論が特徴的でした。Poster Session は Oral Session と並行して開催し、展示やデモエリアと集約することで参加者の流れを工夫し、異分野交流が促進されました。結果、Poster Session にも多くの参加者が集まり、活気あるものとなりました。

【併催イベント】

最先端技術を体験できる Innovative Demonstration Session (I-DEMO) では、計 37 件のデモが披露され、会期を通じて大変盛り上がりました。また、高等専門学校生による I⁴D Contest では 2 チームが創造性や技術力を競いました。21 社 5 大学等による展示ではスタンプリナー等の工夫も好評で、来場者と出展者との交流が活発に行われました。

初日夜には「Display Night」として、参加者・講演者の懇親の場が華為技術日本株式会社の協賛により設けられ、Min Chul Suh 博士 (Kyung Hee University 教授)、Radu Alexandru Sporea 博士 (University of Surrey 准教授) による講演も行われました。2 日目にはキーサイト・テクノロジー株式会社によるランチオンセミナーも盛況でした。さらに会期前日には、マツダミュージアムと NHK 広島放送局の見学を組み合わせたテクニカルツアーも実施し、技術と地域文化を体感する好機となりました。

【表彰・論文推薦】

表彰では、Best Paper Award 14 件、Best Student Paper Award 11 件、Outstanding Poster Paper Award 14 件、I-DEMO Award 2 件、I⁴D Contest では I⁴D Best Demonstration Award 1 件、I⁴D Recognition Award 1 件が授与されました。さらに、受賞の有無を問わず学術的に価値の高い論文を、映像情報メディア学会論文誌、電子情報通信学会英文誌、Journal of SID、IEEE Open Journal on Immersive Displays (OJ-ID) の投稿候補として推薦しました。

【財政・総括】

開催にあたっては、科学研究費補助金、広島観光コンベンションビューロー、SID 日本支部、さらには協賛 9 社 (賛助企業 3 社、賛助会員企業 6 社) よりご支援をいただきました。

IDW '25 は新分野への拡張と参加者増を目指して運営され、論文数・参加者数は昨年より減少したものの、コロナ禍前の水準へほぼ回復、また、費用面でもバランスの取れた運営となりました。

【謝辞】

最後に、本会にご協賛いただいた学会の皆様、ご支援ご協力くださったワークショップ委員・組織委員・実行委員・プログラム委員の皆様、現地会場スタッフの皆様、アルバイト・ボランティアの皆様、及び IDW 事務局の皆様にご心より御礼申し上げます。

IDW 学生発表者支援制度を受けて IDW'25 に参加して



田澤 礼旺 (工学院大学)

この度は、昨年度の IDW'24 に引き続き、IDW'25 への参加に際し、多大なるご支援を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。私は、液体金属を活用したディスプレイ・光学デバイスへの応用に関する研究を行っており、今回の IDW'25 では「Development of Electrically Controlled Liquid Metal Optical Device to Improve Aperture Ratio」という題目でポスター発表をさせていただきました。昨年度の IDW'24 で得た経験を踏まえ、本年度はより自信を持って発表および英語での質疑応答に取り組むことができました。その結果、本年度よりも多くの研究者の方々から様々な観点からの貴重なご意見やご助言を賜り、

有意義な議論を交わすことができたことに加え、「IDW'25 Best Student Paper Award Winners」に選出されるという大変光栄な成果を得ることができました。この 2 度の IDW での発表は、自身の研究分野の発展に

資するのみならず、自己成長においても欠かすことのできない貴重かつ素晴らしい経験となりました。これらの成果は、ひとえに SID 日本支部 様より賜りました温かいご支援の賜物であり、改めて深く感謝申し上げます。



亀田 大輔 (徳島文理大学)

SID 日本支部 IDW 学生発表者支援制度のご支援のもと、IDW'25 においてポスター発表の機会を頂きました。本研究では、FPS ゲームにおけるパフォーマンスに対するフレームレートの影響について検証を行いました。

検証の結果、スコア、反応時間、破壊ターゲット数の3つのパフォーマンスは、60fps 条件と比べて 120fps 条件で有意に向上しました。また 120fps 条件と比べて 360fps 条件で命中精度が低下する傾向を見出しました。この結果は、単純にフレームレートを高くしただけでは操作性が向上しないことを示しています。360fps 条件における命中精度低下の要因については、入力系を含めたシステム全体の最適化の観点から検討していく必要があると考えています。本ポスター発表「Effects of Frame Rate on Accuracy in Shooting Games」を通じ、多くの研究者の方々から貴重なご助言を頂きました。今後はマウス操作を含めたシステム全体を分析し、原因の解明を進めていきます。

最後に、本制度を通じて発表の機会をご支援いただいた SID 日本支部の皆様へ深く感謝申し上げます。

松尾 賢杜 (九州大学)

この度は IDW'25 への参加に際し、ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。仮想現実(VR)や拡張現実(AR)は次世代のウェアラブル端末として台頭してきていますが、真のウェアラブル端末になるためには小型化がまだ不十分です。私は VR ゴーグルの光学系を小型化する研究に日々取り組んでおり、IDW'25 では”Compact VR Optical System Using a Lens Array”というタイトルで、パンケーキレンズを超える次世代光学系としてレンズアレイ光学系を発表させていただきました。学部4年生でありながら口頭発表と I-DEMO を行うことができ、非常に有意義な議論を交わすことができたほか、本研究に協力していただける企業様や教授と連絡先を交換することができ、修士課程での研究発展に向けて素晴らしい機会となりました。



最後に、今回のご支援に関しまして SID 日本支部の皆様へ重ねて御礼申し上げます。



長岡 歩 (山形大学)

この度は、IDW'25 への参加に際し、参加費のご支援を賜りましたこと、心より厚く御礼申し上げます。私は現在、次世代の光学素子やディスプレイへの応用を目指し、溶液塗布プロセスを用いたフレキシブル光学薄膜の研究に注力しております。今回の口頭発表では、“Room-Temperature Fabrication of Solution-Processed Flexible Bragg Mirrors”という題目で、真空紫外光(VUV 光)照射による光緻密化反応を用いた室温下かつ溶液プロセスのみで柔軟性を持つブラッグミラー(多層膜反射鏡)を形成する手法について報告いたしました。

学会当日は様々な研究者の方々とは活発な議論を交わすことができ、自身の知見を広げる上で大変有意義な時間となりました。その結果、光栄にも“Best Student Paper Award”を選出いただくことができました。

最後になりますが、ご支援をいただきました SID 日本支部の皆様へ、改めて深く感謝申し上げます。今回の経験を活かし、より一層研究に邁進していく所存です。



滝山 和晃 (宇都宮大学)

この度は、IDW'25 への参加に対するご支援をいただき、誠にありがとうございます。私は「Expanding the Field of View in a High-Resolution Aerial Display Using a Combination Lens and Retro-Reflector」の題目での口頭発表、「High-resolution Aerial Display with a Wide Field of View Using Combined Lens-enhanced Aerial Imaging by Retro-reflection」の題目で I-demo で発表させていただきました。この発表は何もない空中に高解像度、広視野の映像を表示する組み合わせレンズと再帰反射を用いた空中ディスプレイの提案、測定に関する内容であり、発表を通して自身の研究内容、測定方法やさらなる可能性に

ついて多くの研究者の方々と議論することができました。

最後に、今回の学会参加に対するご支援に重ねて御礼申し上げます。

兼子 颯大郎 (宇都宮大学)



この度は IDW'25 への参加にあたり、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございます。空中ディスプレイは、何もない空間に情報を提示できる次世代の映像技術として、現実世界とデジタルを融合する自由空間インターフェースへの応用が注目されています。特に、映像面にハードウェアが存在せず、非接触で映像操作が可能であることから、タッチレスインターフェースとしての活用が進められています。一方で、映像に触れた際に触覚や聴覚による刺激が得られず、視覚情報に依存した操作となるため、常に映像面を注視する必要があり、従来の端末操作と比較して直感的・気軽な操作が難しいという課題があります。私はこの課題の解決を目的として、簡易な構成で、ある広がりを持つ面状の局所的な温度刺激を提示可能な「空中ヒーター」技術の研究に取り組んでいます。IDW'25 では、再帰反射による空中結像 (AIRR) の原理に基づいた空中ヒーターにおいて、光学素子として用いたパンチングメタルの開口率・孔径・ピッチと光利用効率の関係を解析した結果について、「Optical Efficiency Simulation Correlated with Temperature Increase in an Aerial Heater Composed of Surface-Reflective Optical Components」の題目でポスター発表を行いました。会期中は、様々な分野でご活躍されている研究者の方々から、厳しいご意見や激励、貴重なアドバイスを頂き、大変活発な議論を行うことができました。これらの議論を通して、新たな研究の指針や改善点など多くの気づきを得ることができ、修士課程最後の研究活動に向けたモチベーションを大いに高める貴重な機会となりました。

最後に、本学会の参加に際しご支援を賜りました SID 日本支部の皆様へ、改めて深く御礼申し上げます。



村上 あず (宇都宮大学)

はじめに、IDW'25 への参加に際し、ご支援頂いたこと深く感謝申し上げます。私は大学院で、水中ディスプレイを用いた生物の体長測定や AI を用いた奥行き知覚に関する研究に取り組んでいます。IDW'25 の論文では、深度推定 AI を利用することで空中像における奥行き知覚を定量的に検証する手法を提案しました。「Verifying the Influence of Visual Guides on Depth Perception of Aerial Images by Use of Depth Estimation AI」という題目で発表を行い、本分野で活躍されている研究者の方々と活発な議論を交わすことができました。

また、2025 年 12 月 6 日に IDW'25 に併せて開催された、SID 日本支部学生チューデントチャプター主催の Connect2025 の運営として携わる貴重な経験を得ることができました。

最後に、今回のご支援に関しまして、SID 日本支部の皆様へ重ねて御礼申し上げます。

高塚 大輝 (宇都宮大学)



この度は、IDW'25 への参加に際し、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。プライバシーを考慮したジェスチャー認識を実現すべく、深層学習を用いたシングルピクセルイメージングによるシルエット検出に関する研究に取り組んでおります。IDW'25 では、近年注目を集めている空中ディスプレイを照明パターンとして利用することで、被写体面に直接結像することが可能である点や空中ディスプレイのインタラクションセンサーとしての有用性についての口頭発表を行いました。ディスプレイ分野の研究者の方々と活発な議論を交わすと共に、その他の発表やデモ展示を通して自身の視野が広がり、今後の研究アイデアやモチベーションを高める素晴らしい機会となりました。

改めて、今回のご支援に関しまして SID 日本支部の皆様にご感謝申し上げます。



大下 直晃 (山形大学)

この度は、IDW'25 への参加に際し、IDW 成果発表支援制度によるご支援を賜り、誠にありがとうございました。

私は、純青色発光ペロブスカイトナノプレートレットに関する研究に従事しており、その水平配向制御および LED 応用を目指した成果を「Face-Down-Oriented Perovskite Nanoplatelets for Pure-Blue Light-Emitting Diodes」という題目で口頭発表いたしました。本会議は、世界各国から研究者が集う国際会議であり、活発な議論を通して貴重なご意見を頂戴し、研究をさらに発展させるための重要な知見を得ることができました。

また本発表では、Best Student Paper Award を受賞することができ、今後の研究活動への大きな励みとなりました。本会議への参加を通じて当該分野の最新動向への理解を深めるとともに、研究成果の社会実装に向けた意識を一層高めることができました。今後はこれらの経験を活かし、より価値の高い研究成果の創出に向けて一層努力してまいります。

最後に、本会議への参加にあたりご支援いただきましたこと、深く御礼申し上げます。

飯塚 琢朗 (山形大学)



この度は、IDW '25 への参加にあたり多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本学会にて、私は「Outstanding Enhancement of the Photostability of PeNC-Based QDEF via Lecithin Surface Passivation」という題目で口頭発表を行いました。発表では、レシチンによる表面不活性化がペロブスカイトナノ結晶の光安定性を劇的に向上させる手法について報告しました。専門家の方々からの鋭い質疑を通じて、自身の研究の意義を再確認するとともに、今後の課題を明確にすることができ、非常に有意義な機会となりました。また、最先端の展示や講演に触れたことは、研究への大きな刺激となりました。今回の経験を糧に、さらなる研究成果を上げられるよう一層精進してまいります。改めて、貴重なご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。



田崎 大智 (宇都宮大学)

この度は IDW'25 への参加にあたり、多大なるご支援を賜り、誠にありがとうございました。近年、公共空間における情報提示手法として、LED パネルを用いたサイネージが広く普及しています。これに加えて、何もない空間に映像を表示する空中ディスプレイ技術も注目を集めており、新たなサイネージとして期待されています。特に、再帰反射を用いた空中結像 (aerial imaging by retro-reflection: AIRR) は、光学設計の自由度が高く、コンパクトな空中ディスプレイの実現が可能であることから、研究が進められています。一方で、表示デバイスの小型化を進める過程では、画素間に生じるピクセルギャップが画質に影響を及ぼすという課題があります。先行研究では、スクロール表示においては、

人間の視覚特性によってこれらの欠損領域が主観的に補完される可能性が示唆されています。しかし、その補完メカニズムについては、十分に解明されていません。私はこの視覚的補完現象に着目し、予測符号化理論に基づく深層ニューラルネットワークである PredNet を用いて、スクロール表示におけるピクセルギャップ補完の特性を解析する研究に取り組んでいます。IDW'25 では、自然画像で学習した PredNet を用い、LED ディスプレイおよび AIRR による空中ディスプレイの両環境において、ピクセルギャップ幅を段階的に変化させた際の予測画像を比較・評価した結果について、“Estimation of Visual Complement in Scrolling Displays Using PredNet of Natural Images of LED and Aerial Images”の題目で発表を行いました。

会期中は、視覚系、ディスプレイ、3D など多様な分野の研究者の方々から、多くのご意見や示唆を頂き、活発な議論を行うことができました。これらの議論を通して、本研究の位置づけを改めて整理するとともに、今後の定量評価や人間の知覚特性との比較といった課題が明確になり、修士課程最後の研究活動に向けた大きな刺激を得ることができました。

最後に、本学会への参加に際しご支援を賜りました SID 日本支部の皆様へ、改めて深く御礼申し上げます。

町頭 悠太 (徳島大学)

IDW'25 の参加に際しまして、ご支援賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

私は AR の視認性を向上させるための手法の検討とその評価を行っており、IDW'25 では「Relationship between Visual Changes and Visibility of Virtual Character and Utilization of Blur and Color for AR Display」という題目で口頭発表させていただきました。多くの方々に聴講していただき、そして貴重なご意見を頂戴できましたこと、大変嬉しく思います。発表の他にも、聴講やデモ展示を通して、同じ分野を研究されている方々の研究内容を拝見し、研究動向や新たな知見などを学ぶことができました。今回の参加および発表を通して得られたものを活かして、今後の研究に励んでいきたいと思っております。最後に、本学会への参加にあたり、ご支援いただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。



佐藤 由佳 (宇都宮大学)

この度は、IDW'25 への参加に際し、ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。私は現在、再帰反射を用いることにより形成される空中像を顔に投影しメイクを行うプロジェクションマッピングの研究を行っております。IDW'25 では、顔の凹凸に追従したプロジェクションマッピングへの実現に向け、“Proposal for the Control of Aerial Image Bending by Use of a Distorted Beam Splitter”の題目でポスター発表を行い、様々な分野で活躍されている研究者の方々と活発な議論を交わす貴重な経験となりました。



また、2025年12月6日にIDW'25に併せて開催されたSID日本支部スチューデントブランチ主催のConnect2025にも運営として携わり、今後の研究について貴重な意見を沢山いただきました。来年も開催される予定ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

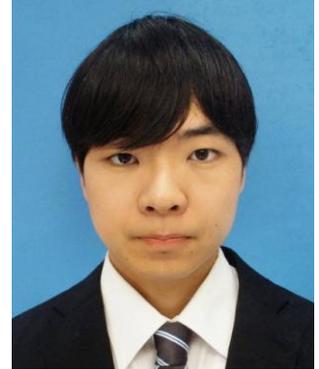
最後に、今回のご支援に関しましてSID本部の皆様に重ねて御礼申し上げます。

井関 陽太 (徳島大学)

この度は、IDW'25への参加に際し、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。計算機合成ホログラム (CGH) は、仮想的な3Dモデルからの光波の伝搬や干渉をコンピュータ上でシミュレーションすることにより、物体再生に必要なホログラムを生成する技術です。私はこのCGHにおいて、物体を点光源の集合として表現する点光源法に関する研究に取り組んでおります。今回我々は、点光源再生に必要なフレネルゾーンプレートの振幅分布を効率的に変調することで陰影を表現する手法を提案いたしました。IDW'25では

この内容について、"Efficient Ray Tracing for Hologram Data Computation Using Fresnel Zone Plate Modulation"という題目で口頭発表の機会をいただきました。多くの方々にご聴講いただき、さらに貴重なご意見・ご助言を賜りましたことを大変嬉しく存じます。今回の参加および発表を通して得られた知見やご指摘を今後の研究に活かし、より一層研鑽を重ねてまいります。

最後に、今回のご支援に関しましてSID日本支部の皆様に重ねて御礼申し上げます。



馬 伝宇 (九州大学)

この度は、IDW'25への参加に際し、学生発表者支援制度によるご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

近年、拡張現実 (AR) 技術の進歩により、小型で軽量のヘッドマウントディスプレイの需要が高まっていますが、視野角 (FOV) の制限やアイボックスの狭さが実用化における大きな課題となっています。私はこれらの課題を解決し、より快適なAR体験を提供するため、曲面レンズ上にホログラフィック光学素子 (HOE) を作製する新たな手法の研究に日々取り組んでおります。

今回我々は、フォトポリマーフィルム (Bayfol® HX120) を曲面ガラス基板に精密に積層し、二光束干渉法を用いて直接露光する手法を提案しました。この手法により、化学的な後処理を必要とせず高い回折効率と超薄型化を実現しました。さらに、曲面HOEを用いた準マクスウェル視 (Quasi-Maxwellian view) 光学系を設計することで、眼球の回転に対する許容度を大幅に向上させ、アイボックスの拡大とフリーフォーカスなAR画像の投影に成功いたしました。

IDW'25では、この研究内容について "Holographic Optical Element Fabrication on Curved Surfaces Targeting AR Glasses Lens" の題目で発表を行いました。ARおよびディスプレイ分野で活躍されている世界中の研究者の方々と活発な議論を交わすことができ、自身の研究を客観的に見つめ直すとともに、今後の研究活動に向けた大きなモチベーションを得る素晴らしい機会となりました。

最後になりますが、今回のご支援に関しまして、SID日本支部の皆様に重ねて厚く御礼申し上げます。

杉山 開誠 (徳島大学)



この度は、IDW'25 への参加に際し、ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。私は、HOE プリンタと HOE スクリーンに関する研究を行っており、IDW'25 では、「Preliminary Study on Cylindrical HOE Screen Manufactured by Mechanically-equipped HOE Printer」という題目で口頭発表をさせていただきました。学会当日は、多くの方々に発表をご聴講いただき、質疑応答により貴重なご意見も頂戴し、大変有意義な経験となりました。また、デモ展示や口頭発表の聴講を通じて他大学・企業の方々の研究に触れ、同分野および関連分野の研究動向や新たな知見を学ぶことができました。これらは自身の研究へのモチベーションをさらに高める良い機会となりました。本学会への参加・発表を通じて得た経験は、今後の研究および研究発表に活かしていきたいと考えております。

最後に、本学会参加にあたりご支援いただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

2026 年 SID 日本支部体制のお知らせ

<役員>

○支部長	中村 卓	(Magnolia Unitas)
○副支部長	山本 裕紹	(宇都宮大学)
○庶務幹事	清水 貴央	(NHK)
○会計幹事	工藤 幸寛	(工学院大学)
○庶務幹事補佐	神戸 江美子	(出光興産)
○会計幹事補佐	岡庭 みゆき	(コニカミノルタ)
○Japan Region Director	辻村 隆俊	(ジャパンディスプレイ)

<特命委員> (※ 発生する課題対応や業務の状況変化に応じて随時支部長が指名を行う)

プログラム委員会委員長	中村 卓	(Magnolia Unitas) 支部長兼任
会員増担当	志賀 智一	(電気通信大学)
会員増担当 (副)	桶 隆太郎	(パナソニック)
選挙管理委員	服部 励治	(九州大学)
トレーニングスクール校長	檜山 邦雅	(コニカミノルタ)
トレーニングスクール副校長		(人選中)
サマーセミナー校長	木村 睦	(龍谷大学)
サマーセミナー副校長	荒井 俊明	
50 周年記念	水崎 真伸	(シャープ)
50 周年記念	柴崎 稔	(Innolux)
学生支部アドバイザー	山本 裕紹	(宇都宮大学) 副支部長兼任
学生支部アドバイザー(副)	服部 励治	(九州大学)

2026年 主な学会、研究会等日程のお知らせ

日程	研究会名	開催地
1/29-30	発光型/非発光型ディスプレイ合同研究会【共催】	サンポートホール高松
2/26	JEITA 電子ディスプレイ 標準化活動報告会 2025 【協賛】	オンライン
3/3	(一社)照明学会 光源/照明システム分科会 公開研究会 「LED 光源の現状と新展開」のご案内 【協賛】	連合会館 402 会議室
3/3-4	ITE 立体メディア技術研究会 (3DMT) 【協賛】	東京農工大学小金井 キャンパス 新1号館1F グリーンホール
3/6	2025年度 日本発・注目ディスプレイ科学技術講演会	(株)東陽テクニカ 本社 7階 セミナー室
3/11	JEITA 電子ディスプレイの人間工学シンポジウム 2026 【協賛】	法政大学小金井キャンパス +オンライン
3/13	【共催】 ディスプレイ技術シンポジウム 2026	オンライン
3/16-17	SID Mid-Europe Chapter Conference 2026 Augmented Vision: Displays for Defense 【協賛】	リスボン (ポルトガル)
5/4-8	SID Display Week 2026	Los Angeles, USA
6/3-5	ODF'26 【協賛】	富山国際会議場
7/7-10	AM-FPD 26 【協賛】	龍谷大学深草キャンパス成就館

編集後記：

～ 禁無断掲載 ～

本号では、北海道大学・中野谷一先生の研究成果として、近赤外有機 EL 素子に関する最新の取り組みをご紹介いただきました。とりわけ、不可視光の NIR-OLED を用いたプロジェクターと CMOS カメラを組み合わせにより三次元モデリングを実証した点が注目されます。今後センシングアプリケーションへの展開も期待され、ディスプレイ技術の発展に資する成果として大きな示唆を与える内容でした。

またディスプレイトレーニングスクールの開催報告、学生ランチの新規活動報告、IDW の盛況な開催報告など、各所での力強い動きをお届けしました。コミュニティとしての広がりや熱量が随所に感じられる内容になったのではないのでしょうか。あわせて、SID 日本支部としての学生支援の状況についても取り上げ、次世代を担う皆さんを後押しする取り組みを継続していることをご報告しました。

2026 年も新たな体制のもと、活動の質と幅をさらに高め、会員の皆様とともにより魅力ある場づくりに取り組んでまいります。特に、新規開催となる「2025 年度 日本発・注目ディスプレイ科学技術講演会」は、最新動向を俯瞰し議論を深める貴重な機会となるはずです。ぜひご注目いただき、積極的なご参加をお願いいたします。

本テキストに記載されている資料の著作権は執筆者にあります。執筆者の承諾なく複製することは、社内用、社外用に問わず禁止されています。無断複製は損害賠償、著作権法の罰則の対象になります。

編集担当：神戸 江美子（出光興産株式会社）email: emiko.kambe.6140@idemitsu.com

SID 日本支部 HP: <http://www.sid-japan.org/>